

# 体験活動のススメ

## ～その2～



### 1 体験活動の実践を求めて

子どもの調和の取れた人間形成には発達段階に応じた豊かな体験が欠かせません。「体験活動のススメ～その1～」では、体験活動の有用性や課題等について述べてきました。現在、筑紫野市の各地域では、それらの課題解決を図りながら、行政、学校、民間団体などが様々な体験活動に取り組んでいます。子どもの体験活動が広がり、より一層充実されることを願い、いくつかの実践を紹介します。

#### ☆「生活丸ごと体験活動(通学合宿)」に取り組もう

通学合宿は、福岡県が発祥の地です。異年齢集団で生活技能を磨いたり、役割を自覚したり、他人との協調性や責任感を育てたりすることが期待できるものです。さらに、通学合宿の実践は、地域の人々の人間関係の回復にも貢献するものです。この地域の人間回復こそが、地域ぐるみの子育ての培養地をつくる営みといえるでしょう。この通学合宿を地域で実施するとなると難しいものがありますが、地域や子どもの実態に合わせて実行委員会を組織するなどして継続的な取り組みを進めていく必要があります。

(※実践事例 「山家通学合宿」は23年度から7年間、継続して実践中です。)

#### ☆「困難体験活動」にチャレンジさせよう

人は、社会に出れば、必ず困難な出来事に出会うものです。困難に対処する方法と辛くても逃げ出さないたくましさ、我慢強さを身に付けておく必要があります。子どもは、決して楽しいことだけを体験したがるわけではありません。

竜岩自然の家での筑紫野市子ども会育成連絡協議会のキャンプでは、早朝登山を実施し、子どもに達成感や充実感を体感させています。また、天山区では、多種多様な生物が守っている里地里山を様々な体験活動を通じて実感させ、里地里山は、自分たちで守らなければならないことを学ばせる体験活動（「あまやまの里山」、「あまやまアジサイ園をつくろう」）が取り組まれています。

筑紫野市社会教育委員の会

## ☆「子どもの居場所づくり」(ふれあい場所づくり)に取り組もう

遊びは、本来楽しいものです。また、遊びは社会性、協調性、体力、創造性、思いやりの心など多くの教育効果が期待できるものです。しかし、運動の二極化が生じている昨今、屋内での同年齢、少人数でのテレビゲーム等で遊ぶ子どもが多い現状が気になります。今後は、意図的に子どもの日常生活の中に、体を使った遊びを復活させるようにすることが重要です。

(※実践事例 あしきっこ子ども広場、主催は、筑紫野市ボランティアの会です。)

## ☆「働く・生産する体験活動」を積みませよう

利便化された生活の中で、子どもたちは、仕事(手伝い)をすることが少なくなっています。働くことを嫌がり、物を生産する喜びを味わうことなく消費することしか知らない子どもは、感謝の心や勤労の大切さ、物を大事にする気持ちが薄れてきます。汚れることを気にせず、働く経験や苦労しながら物をつくる体験、つくった物を大切に扱う体験をしっかりと積みませることがたいせつです。

(※実践事例 永岡BGレンジャー事業、実行委員会を立ち上げて実践)

## ☆「ボランティア体験活動」に参加させよう

家庭や地域、社会のために何かできることをする。そして、役に立つ喜びを感じる体験は、豊かな感性を育成する観点からも大切です。人間関係が、希薄になっている中、お互いに支え合う(相互扶助)社会をつくるために積極的に取り組んでいきたいものです。各中学校や地域では、年間を通じたボランティア活動がみられます。

(※実践事例1 地域ボランティア 筑紫野中学校)

(※実践事例2 パープルナイト2015、まちづくりNPO法人ほっと二日市)

## ☆「地域が好きになる体験活動」に取り組もう

夏休み等の長期休暇は、子どもたちが地域に戻ってきます。夏休み期間を利用し、公民館などの施設で、地域の仲間と遊びや学習を通して仲間づくりをします。

地域には、様々な人材が隠れていますし、地域ならではの場所もあります。秘められた地域の力で子どもが成長します。子どもも大人も地域がもっと好きになるはずです。(※実践事例 ステキな夏休み教室 in 桜台、宮ノ森区、牛島区も実践)

## 2 子どもの体験活動の充実のカギとなる家庭生活

子どもの体験活動の充実には、家庭が大きな役割を果たします。睡眠や食事などの家庭での規則正しい生活ができていなければ、子どもは無気力になり、地域活動の意欲もわきません。例え参加していても、十分な活動や成果は期待できないものです。つまり、家庭生活は、子どもの体験活動を推進する重要なカギを握っているといえます。子どもの体験活動を充実させる上で、家庭において取り組んでもらいたものは、次のような内容です。

### 家庭で取り組んでもらいたいもの

#### ① 家庭での生活リズム（基本的な生活習慣を確立）しましょう

生活リズムの乱れは、食欲不振や心身の疲労感をもたらし、学習や諸活動の意欲を奪います。子どもの生活リズムの乱れの責任の乱れは家庭にあり、まず、保護者自身の生活を見直すと共に家庭の責任において子どもの望ましい生活のリズムを確立する必要があります。

#### ② 家庭での映像メディア漬けから脱却しましょう

メディア漬けの生活は、無気力で体験活動や学習への感心や意欲を持たない可能性が高くなるという調査結果もあります。家庭で話し合いながらルールを決めるなど、メディアと主体的にかかわることの大切さを啓発していく必要があります。

#### ③ 家庭での手伝い（仕事）を習慣化しましょう

家庭で手伝い（仕事）をしていない子どもが増えています。家事を分担させることは、親子の会話を増やすと共に責任感、自立心、自己有用感等を育みます。

子どもは、失敗して当たり前、できなくて当たり前という前提で根気強く取り組んでいく必要があります。

#### ④ 家庭での読書活動をすすめてみましょう

読書生活は、心を豊かにし、人生を豊かに生きる力を身につけていく上で、欠くことができないものです。

活字離れが進んでいる昨今、日常の家庭生活の中で本を親しむ活動を意図的にし、読書習慣の確立が求められます。



### 3 子どもの体験活動の実態を把握

家庭で取り組んでいただきたい①～④の内容は、いったいどのような実態なのか把握することが必要です。そこで、全国学力・学習状況の調査から関連する項目を抜粋し、国、県、市の実態から考察し、課題を明らかにしました。

#### ① 家庭での生活リズム(基本的生活習慣)を確立

- 朝食を毎日食べているか？
- 毎日同じくらいの時刻に就寝・起床しているか？
- 平日の就寝時間は？



- 朝食9割以上摂取だが内容は疑問
- 遅寝の低年齢化
- 「あいさつ」「整理整頓」などの基本的生活習慣の定着とその指導の必要性

#### ② 家庭での映像メディアからの脱却

- テレビ、ビデオ、DVD視聴の時間は？
- テレビゲーム等の時間は？
- 携帯電話、スマートフォン、インターネットの活用は？



- 長時間使用している割合が高い
- 生活リズムの確立
- 読書活動の推進ともリンクしながら啓発活動を推進

#### ③ 家庭での手伝い(仕事)を習慣化

- 地域の行事への参加は？
- 地域や社会で起こっている問題や出来事への関心度は？
- ボランティア活動の参加は？
- 家の手伝いは？



- 参加していない要因は何か
- 自分さえよければといった大人の影響
- 家事の役割・責任感

#### ④ 家庭での読書活動の推進

- 新聞を読んでいるか？
- ニュースは見るか？
- 読書は好きか？
- 1日の読書の時間は？
- 図書館・図書室の利用状況は？



- 新聞を読んでいるのは20%
- 活字文化より映像文化
- 読書活動が低関心
- 読書好きの子を育ててたて

#### ⑤ 体験活動の意義づけ

- 最後までやり遂げてうれしかったことがあるか？
- 難しいことでも失敗をおそれないで挑戦しているか？
- 自分にはよいところがあるか？



- 嬉しさ体験は90%が体験
- 失敗を恐れないで挑戦するは25%が未体験
- 体験の必要性

### 4 社会教育委員の会として

学校や団体、関係機関との連携、情報発信の工夫など課題は山積ですが、子どもたちの体験活動の広がり実践化のために、少しずつでも変えていく努力を真摯に積み重ねていきたいと思えます。「できることから、地道にやる」という基本姿勢を忘れずに…